



PRESS RELEASE

令和 6.年 9 月 26 日

寄付講座『微生物インダストリー講座』シンポジウムを開催**◆発表のポイント**

- ・ 2024 年 11 月 1 日に寄付講座『微生物インダストリー講座』は、シンポジウム『固体培養技術の社会実装チャレンジ ～麴の有用性と未来像～』を開催します。(会場：岡山大学創立五十周年記念館、開催：会場とオンラインのハイブリッド開催)
- ・ 午前には学生プレゼンテーションを行い、午後は講演と総合討論を実施します。
- ・ 講演と総合討論では、麴（固体培養）の有用性を活かした社会実装が近年注目を浴びており、それについての 3 人の講師により、未来の新たなものづくりについて意見交換を行います。

『微生物インダストリー講座』は、昨年度に続き、第 3 回シンポジウムを開催いたします。これまでのシンポジウムの講演に加えて、午前に学生プレゼンテーションを、午後は恒例の講演と総合討論を実施します。シンポジウムのタイトルは、『固体培養技術の社会実装チャレンジ ～麴の有用性と未来像～』として、近年その社会実装に注目を浴びている麴（固体培養）の有用性を活かしたものの作りについて 3 人の講師による講演をいただくとともに総合討論により、未来の新たなものづくりについて意見交換を行い、理解を深めます。

日本中にはさまざまな未利用資源が眠っています。日本で古来より培われてきた「麴づくり」に用いられている固体培養技術の産業化を想定した「小型通風式固体培養装置(図 1)」を使用して、新しい素材開発やその社会実装への可能性を追求しています。



神崎教授（特任）



原助教（特任）

■発表内容

講座では微生物の力を産業利用する可能性を科学的に追及するため、岡山県工業技術センターや種麴メーカーなどと産学官研究コンソーシアムを構築し、さらに地域の企業と共同で固体培養を中心とした微生物の力を活用した未利用資源の新規利用の探索を行っています。

我々が固体培養に用いる素材として着目しているのは、食品副産物や農業廃棄物といった未利用資源です。固体培養を行うことで酵素・一次代謝産物・二次代謝産物などの機能性成分が豊富に生産され、新たな機能性素材として活用できます。これら固体培養技術を応用した商品の社会実装に向けた事例を講演で紹介いただくと共に、固体培養技術を基にした未来の新たなものづくりについて、講師・パネラーと総合討論を行う予定です。



図1 小型通気式固体培養装置

■シンポジウム概要

1. 名称 「固体培養技術の社会実装チャレンジ ～麴の有用性と未来像～」
2. 日時 2024年11月1日（金）10：00～17：00
3. 場所 岡山大学創立五十周年記念館（岡山市北区津島中 1-1-1）
4. 対象者 麴菌の固体培養や固体培養を用いた社会実装に向けた取り組みにご興味のある方
5. 定員 350人（対面で参加可能な人数）＋オンライン参加
6. 申込方法 参加費無料・要事前登録、詳細はチラシを参照ください
7. プログラム

■開会挨拶

那須 保友 岡山大学 学長

藤原 加奈 （株）フジワラテクノアート 代表取締役副社長

■講演

「麴菌の多様性が生み出す新たな醸造の世界と食文化」 楠本 憲一

大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻 麴菌育種工学寄附講座 教授

「日本の食文化を守り育てるために、麴発酵ができること」 澤田 和典

東京工業大学 ぐるなび食の価値創成共同研究 研究員

（株）ぐるなび イノベーション事業部 新規事業推進室

「畜産飼料への応用を目指した複数のバイオマス分解酵素を高生産する

セルフクローニング麴菌株の造成」 妹尾 佐都子

（株）フジワラテクノアート プロセス開発部 課長



PRESS RELEASE

■総合討論

パネリスト	楠本 憲一	大阪大学 麹菌育種工学寄附講座 教授
	澤田 和典	(株)ぐるなび イノベーション事業部 新規事業推進室
	山下 秀行	(株)樋口松之助商店 取締役研究室長
	狩山 昌弘	(株)フジワラテクノアート 専務取締役
コーディネーター	神崎 浩	岡山大学 微生物インダストリー講座 教授 (特任)

■閉会挨拶

廣部 宗 岡山大学 大学院環境生命自然科学研究科 副研究科長

<お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域 (農)
 教授 (特任) 神崎 浩、助教 (特任) 原 唯史
 (電話番号) 086-251-8297 (FAX) 086-251-8388

(URL) <https://ou-m-industry.jp/>

